
いまひとたびの

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いまひとたびの

【Nコード】

N8557D

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

哀ちゃんと怪盗キッド。ちょっとホワイトデー。哀ちゃんは怪盗キッドの正体は知らないけれど、黒羽くんは知ってます。な話。飛びかう寒いセリフに注目です（笑）

「ひとはワガママですね」

ふう、と片眼鏡の端に少女をとらえて、白い怪盗は唇を上げた。

「幾千の想いを向けられても満たされない」

そして続ける。

「私が望むものは、あなた」

ベランダで迎えた、緋色の髪少女は、透き通る青い瞳で冷たく微笑う。

「下手な誘い文句ね」

少女ー灰原哀が、白い怪盗ー怪盗キッドに会ったのは、月の明るい公園だった。ひとり、肩を震わせてベンチに掛ける哀の傍らに何処からか現れて

「泣かないでください」と白いバラを差し出したのだ。

「あなたの涙は、このバラにさえ哀しみを移してしまうから」と。

驚き、涙を拭うのも忘れ哀が顔を上げた拍子に、つと一滴落ちた涙が、バラに触れると、バラは紺色に染まっていく。

「だから、笑ってください」

そう笑ったキッドは、少し寂しげで。

「こっやって」

それも一瞬。頬をトンと指で弾き綺麗に笑うキッドにつられて、柄にもなく笑顔らしきものを作ってみた。けれど。

「キャラじゃないわ。……あなたの笑顔、綺麗ね」

すぐさま俯いた哀は、自分のぎこちない笑顔を浮かべて、苦笑する。

「目を逸らすクセがあるのですね」

そつと顎を持ち上げる手を振り払わずされるがまま、哀はキッド

を見据える。

「あなたと目が合ったのは、今だけ。私はあなたからただの一度も目を逸らしていないのに」

「……子供を慰めてるような言葉には聞こえないわ」

「まさか」

キッドは、大げさに言っただけ顔を近づける。

互いの息がかかりそうな程に近く。

「口説いてますから」

目を見開く哀の髪に触れると、顎から手を離し、

「あなたの笑顔も綺麗でしたよ」

そう言っただけ、哀の目の前で握り拳を開く。

手のなかには真白のバラ。

「笑顔とはこういうものです」

ふふ、と出し惜しみのない笑顔でキッドは楽しげに、ポンポンとバラを出してみせる。白、ピンク、オレンジ、黄色、まだら。

「最後に残るのが私の気持ちです」

パチンとキッドは指をならす。

哀の膝を埋めていたバラは掻き消えた。

「ではまた」

とうやうやしく一礼し、キッドは哀の背中に回った。

その背を哀は目で追わなかった。

哀は、髪に手を伸ばし、触れたものを取り上げる。

それは、息を飲むような色を称えたバラ。これ以上ないくらいの

紅。

「今日は何の日かご存知でしょう？」

「あなたにチョコレートをあげた覚えはないわ」

ええ、とキッドは笑う。

「あなたと交わす言葉が私には甘さそのもの。欲しいとすら思いま

せん」

「用件は何よ」

「お別れを」

静かに告げるキッドに、哀はきゅつと唇を結んだ。

「最後に言葉を頂きたいと訪れました」

「あいしてる、とでも？」

挑むような目をして、自分を見る哀にキッドは、その小さな手を取り口付ける。

「これからは日のもとであなたに会いたい」

そう言つて、片眼鏡を外した。

「黒羽快斗です。以後お見知りおきを」

哀は、かっと赤く頬を染めた。

自分の僅かな動揺にキッドは気付いたという証に、口元を隠してくすくす笑っている。

「よろしくね、哀ちゃん」

片眼鏡を外した青年は哀の良く知る人物だった。

小泉紅子を通じて、多少なりとも会話をしたことがある。会うなり、握手を求められ、変な人として哀の中に存在していた。

「とんだ、お返しね」

「ほら、ホワイトデーは三倍返しが相場だから」

義理チョコの一つを渡していたことを思い出した哀は「だったら……」

と言いかけた。

「ん？ ね、怒った？」

「呆れただけ」

「でも、今なにか……」

「何でもないわよ」

バレンタインデーに教えてくれたら良かったのに。

そんな言葉が出そうになった。

1人顔を赤くした哀を快斗は不思議そうに、優しく見つめていた。

E
N
D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8557d/>

いまひとたびの

2010年10月10日02時53分発行